

2021 年度 卒業研究発表会 報告書

国際観光学部

阪南大学 国際観光学部

2022 年 2 月 2 日 (水) Microsoft Teams 10:00-14:45

運営担当者：福本賢太・長谷川明彦

2021年度 阪南大学国際観光学部卒業研究発表会

記

一、日時 2/2(水)10:00～14:45

二、場所 Teams「卒業研究発表会(1-4年次生)」

三、発表プログラム

12:45 開会挨拶(副学部長挨拶:和泉先生)

12:55 卒業研究発表会に際しての説明

<第1部>司会進行:堀内先生

13:00 和泉ゼミ 立住空 「ご当地スーパーマーケットにおけるお土産店としての可能性—沖縄県を事例として—」

13:15 塩路ゼミ 松井春香 「化粧行動が与える影響 ～現代日本の若者における「化粧」の意味～」

13:30 鷺崎ゼミ 松場颯佑 「路面電車と観光計画 ～広島路面電車の歴史的価値を伝える方法～」

13:45 渡辺ゼミ 熊野志勇人「紙の本や雑誌の未来」

休憩(14:00～14:15)

<第2部>司会進行:大谷先生

14:15 堀内ゼミ 加藤諒人 「ジビエ肉を題材とした鳥取県若桜町のコンテンツツーリズムの可能性」

14:30 森重ゼミ 福田龍之介 「和歌山電鉄貴志川線の存続に向けて」

14:45 松村ゼミ 神谷幸信・鈴木美澄・板井智大・岩元明日香「JR南海新今宮駅周辺の放置自転車禁止区域指定に向けた実態調査」

15:00 清水ゼミ 藤岡桃子 「コンテンツツーリズムがもたらす影響 ～江ノ島電鉄及び沿線地域を事例に～」

15:15 李ゼミ 吉岡楓美香 「日本におけるアウトバウンド政策の課題」

休憩(15:30～15:45)

<第3部>司会進行:清水先生

15:45 大谷ゼミ 藤岡莉子 「プロ野球球団によるターゲットマーケティングに関する研究」

16:00 段ゼミ 大井陽 「中国政府によるウイグル族への宗教と人権の弾圧～100万人以上の強制収容所の実態～」

16:15 福本ゼミ 下峰凌哉 「「大阪」IR事業の実現化へ向けた提言 ～海外先進地における取り組み事例から～」

15:00 長谷川ゼミ 吉田薫 「街の住みやすさについて」

16:45 閉会挨拶(学部長:森重先生)

受賞者一覧

学術賞 藤岡桃子 (清水ゼミ)

独創賞 立住空 (和泉ゼミ)

プレゼンテーション賞 福田龍之介 (森重ゼミ)

要旨集

ご当地スーパーマーケットにおけるお土産店としての可能性 —沖縄県を事例として—

立住空（和泉ゼミ）

近年、観光の分野においても、地産地消が積極的に進められており、地域固有の飲食メニューやお土産などが盛んにつくられている。お土産については、「道の駅」や「空港」、所謂、「観光地などで見かけるお土産店」などで販売されている。しかしながら、「地域固有」という観点からは、「地元のスーパーマーケット」にも、お土産となる品物が販売されているのではないかと考えられる。

このことについては、「定番のお土産」や「地名もののクッキー」などをもらった際に、「がっかり」や「またこれか」と感じてしまう人が多く、旅先における「地元のスーパーマーケット」で売られている商品が、お土産として選択されてきている」との指摘が先学によりなされている。

本研究では、このような先行研究を踏まえて、観光立県である沖縄県を事例に取り上げ、「沖縄県民や海外観光客については、スーパーマーケットの利用が多く見られるが、国内観光客については、スーパーマーケットの利用が少ないこと」を確認するとともに、アンケート調査により、その原因が、「スーパーマーケットにお土産となるような商品が販売されていることについての認知不足であり、また、認知を促すことで利用が期待できる可能性」を明らかにした。また、これらの認知不足の原因の1つは、「情報発信の不足」であると考え、「ご当地スーパーマーケットのウェブサイトの充実」「ご当地スーパーマーケットマップ」「車のナビ検索カテゴリ欄への記載」の3つのことを提案した。

化粧行動が与える影響 ～現代日本の若者における「化粧」の意味～

松井春香（塩路ゼミ）

化粧とは、時間やお金、労力がかかるわりに、生きるために必要不可欠な行動とは言えない。それでも私を含む多くの人々が、朝から丁寧に顔を覆い隠している。また、外に出ると化粧をしている人の多くは女性である。しかし、昔の日本では、男性も化粧を当たり前に行っていたと聞いたことがあったため、人間が化粧をする社会的な意味について疑問を持ち、このテーマを卒論に選んだ。

100人を対象に行ったアンケート調査からも、化粧をしている人の男女比は3:97で、ほとんどの男性が化粧をしていないことが明らかとなった。この「男性は化粧をしないもの」という固定観念は、江戸時代から明治にかけて、男性が化粧をする意味を失い、男性の化粧が、社会的に禁忌とされたことから始まった。その後、性差強調は弱まったものの、現代でも完璧に取り払うことは出来ず、残り続けている。

アンケート結果から、現代日本の若者にとって、化粧とは「自分をより綺麗に見せるもの」であり、少なからず周囲の人間を意識した行為であることが分かった。その要因の一つとして、SNSが発達し、他人と自分を比べる機会が増えたことが挙げられる。

化粧には、自分の顔を好きになるという気持ちの変化をもたらす力がある。しかし、自分のコンプレックスや嫌いな部分を意識し「隠す化粧」に拘ると、顔という唯一無二の個性を失ってしまう。特に、近年では流行のメイクが氾濫し、目指す顔が共通認識になりやすい。そうならないように、自分の良さを「活かす化粧」をするなど、化粧の扱いには十分注意して、自分の見た目と付き合いっていくべきだ。

路面電車と観光計画 ～広島路面電車の歴史的価値を伝える方法～

松場颯佑（鷺崎ゼミ）

今回、私がこのテーマを選択したのは、最新技術を取り入れ、様々な変化を遂げる路面電車の進化の影で、昭和から激動の時代を生き抜いてきた古い路面電車が犠牲になるという現状を少しでも改称したいと考えたためです。

日本全国には、全部で17の路面電車が走っていますが、全ての路線で、バリアフリーの最新型路面電車が登場し、住民や観光客などの大切な足として活躍しています。その一方で、昭和時代から長らく活躍してきた古い車両が置き換えられ、姿を消しています。

そんな中今回のテーマで取り上げる、広島電鉄(株)の路面電車は、日本各地から廃線になった路面電車を譲渡し、「動く路面電車博物館」と呼ばれています。しかしながら、実際は他の路面電車同様、老朽化や新型車両の導入などで、少しずつ数を減らしているのが現状です。

これら昔ながらの古い車両を後生に伝えていくためには、車両を保存していくことが有効ですが、その保存活動にも落とし穴があります。鉄道会社が直接経営している博物館では、会社の利益優先の経営方針によって、貴重な展示車両が姿を消してしまった事例も発生しています。

本レポートでは、広島の路面電車の歴史や、観光地化した全国の路面電車の事例などを踏まえ、「動く路面電車博物館」を守るための改善策を紹介していきます。

紙の本や雑誌の未来

熊野志勇人（渡辺ゼミ）

この論文の目的は紙媒体がデジタルより優れているか、どう生き残るかを明らかにする。具体的にはこの3点を明らかにする。(1) 紙の本、紙雑誌ならではの良さとは何か。(2) なぜ、書店が減ってきているのか。ネット販売や電子書籍が普及するなかで、なぜ人々は書店を訪れるのか。(3) 紙の本や雑誌は生き残れるのかの3点である。方法としては、中西秀彦氏の『電子書籍は本の夢を見るか』、福嶋聡氏の『紙の本は滅びない』、メリアン・ウルフ氏(著)太田直子氏(訳)の『デジタルで読む脳×紙の本で読む脳』を読み、要点を整理する。また、それらを踏まえて、紙の本や雑誌の未来について考察する。

結果として、次の3点が明らかになった。(1) 紙の本は「モノ」として生きている。それは視覚、触覚、嗅覚で本を感じ取れるのである。電子書籍にはなく、紙の本でしか感じ取れない「価値」がある。(2) アマゾンやキンドルといった店舗を持たないお店の普及や電子書籍市場の拡大と共に書店員がデータに頼りすぎてしまい、書店の主体性が無くなってきている。(3) 紙雑誌はデジタルへのシフトが遅れてしまうと生き残るのは厳しいということがわかった。

これを受けて、私は次のように考察した。近年ではデジタル化が進んでおり、電子書籍市場の拡大などで紙の出版物市場の売り上げは年々、減少している。しかし、福嶋氏も言うように書店には書物と読者の偶然の出会いがある。書店の迷路に、さ迷いこむ程、思いがけない書物や、まったく知らない世界との出会いの可能性もある。必要なのは書店員が書店に情熱を注いでいるかであるという。私も、紙の本、紙雑誌には、厳選された記事が載っていて読みやすく理解しやすい点が良いと思う。また、紙雑誌には良い意味で知りたくない情報が載っている。1ページ、1ページ、編集者の思いもあり、こだわっている為、どのページにも魅力がある。私は本はモノとしてあることに意味があると思う。手に持ったり、ページをめくることは最大の良さである。また、人間と共に古びていく紙に私はロマンを感じる。

読者側が一冊の雑誌の裏側に様々な人の想いと苦勞があることを理解して読むことで存在意義がある。

ジビエ肉を題材とした鳥取県若桜町のコンテンツツーリズムの可能性

加藤諒人（堀内ゼミ）

本稿では観光とゲームを結びつけたコンテンツツーリズムについて考え、検証結果についてまとめたものである。この研究はコンテンツツーリズムにおける新しい形態に着目し、アニメや漫画、ドラマや映画といった様々なコンテンツがある中で近年注目を集めているゲームの分野に特にフォーカスを当てた。具体的には自作のカードゲームを作り、そのカードゲームを体験してもらうことでゲームの参加者はどのようなことを考え、感じたのかをまとめた。以上の世にして、観光とカードゲームというコンテンツを組み合わせた新たなコンテンツツーリズムの形態の観光振興の可能性について考えたものである。また、新型コロナウイルスの影響で日本の観光業が麻痺している中で自分がゼミで実際に訪れたことで思い入れのある鳥取県若桜町の観光資源の1つであるジビエ肉を使った料理があるということを本稿で紹介するジビエ肉を題材としたゲームをプレイしてもらうことで知ってもらい、1種のコンテンツツーリズムとして本稿に目を通していただいた皆様に興味を持ってもらうことで現状あまり認知度が決して高いとは言えない鳥取県若桜町の観光業の少しでも力になれることが出来たら私は嬉しく思う。

和歌山電鐵貴志川線の存続に向けて

福田龍之介（森重ゼミ）

和歌山電鐵貴志川線は存続に向けてキシカイセイプロジェクトをはじめ、さまざまな施策を実施しているが、これらによって路線の存続が可能かどうか検討することを目的とした。まず、貴志川線の年間利用者数を調査し、利用者数が前年度と比べて突出して増加もしくは減少していた年度に実施されたイベントや企画、災害などを調査し、利用者数増減の原因を明らかにした。そして、現在進行中の施策について調査し、現在の施策では継続した利用者数の確保は困難である点を課題とした。そこで、他のアニメ聖地やラッピング電車の運行効果によって利用者が増加した事例を調査し、地域住民とファンの協力したイベントの実施、ラッピング電車と地域魅力の同時発信、その地域でしかできない特典の付与が成功要因であると分析した。その結果から貴志川線の存続に向けて、地域とファンが触れ合える場、地域とファンが協力したイベントの実施、たま・ニタマ駅長限定品の継続販売、周辺観光地との連携の強化を提案した。

JR 南海新今宮駅周辺の放置自転車禁止区域指定に向けた実態調査

神谷幸信・鈴木美澄・板井智大・岩元明日香（松村ゼミ）

JR 南海新今宮駅周辺は、2022 年春に星野リゾート OM07 がオープンすることで注目されているが、日本で最も放置自転車が多いエリアでもある。浪速区が中心となって策定した「新今宮駅北側まちづくりビジョン」では、「快適な歩行者空間の創出」が地域の課題として挙げられ、「駅周辺における適正な放置自転車対策」が急務となっている。松村ゼミでは、新今宮駅周辺観光まちづくり推進協議会（以下、協議会）と協働して、JR 南海新今宮駅周辺を放置自転車禁止区域に指定するための基礎的な実態調査を 2 回にわたり行った。

第 1 回の調査は、2021 年 6 月 21 日午後に、のべ 14 名で放置自転車の台数をカウントした。つづく第 2 回の調査は、2021 年 11 月 3・4 日の深夜から朝にかけて行い、のべ 32 名が 4 班に分かれて、どのような人がどこに自転車を置き、どこへ消え去っていったのかに迫った。調査結果については、発表において詳細を示したいが、例えば、置き自転車の存在であるとか、従来の放置自転車調査では得難いような貴重な知見が得られた。2022 年 2 月現在、松村ゼミの調査結果に基づいて、協議会と大阪市建設局・浪速区が協働して、地域の町会も巻き込み、放置自転車禁止区域の指定に向けてようやく動き始めた。

コンテンツツーリズムがもたらす影響 ～江ノ島電鉄及び沿線地域を事例に～

藤岡桃子（清水ゼミ）

神奈川県ローカル線である江ノ島電鉄は、国内外から根強い人気を誇っている観光列車である。しかし、高度経済成長期にはモータリゼーションの影響により全国のローカル線は次々と廃線され、江ノ島電鉄も例外ではなく一時は廃線を検討された。ところが、様々なコンテンツの舞台に江ノ島電鉄及び沿線地域が取り上げられた事で、廃線の危機を脱する事に成功する。

そこで、本研究では江ノ島電鉄及び沿線地域を事例に、コンテンツツーリズムが地域へもたらす影響と、具体的な活用方法について検証し、コンテンツツーリズムの効果的な活用方法について考察した。

まず、先行研究として本研究における定義付けと、コンテンツツーリズムに関する現状を調べ、現地調査とヒアリング調査から、江ノ島電鉄と沿線地域である鎌倉市と藤沢市のコンテンツツーリズムがもたらした影響と活用方法を明らかにした。加えて、消費者意識を把握する事で、双方からコンテンツツーリズムのより効果的な活用方法を考察するべく、コンテンツに対する意識調査を行なった。

結果、コンテンツツーリズムを成功させる前提条件として、地域住民や地域団体がホスピタリティを持って主体的に行動し、加えてコンテンツによる地域への影響が一過性のブームで終わらないように取り組む必要があったが、条件を達成しているのは藤沢市のみであった。

日本におけるアウトバウンド政策の課題

吉岡楓美香（李ゼミ）

世界の交流大国と呼ばれている国々は、インバウンド・アウトバウンド共に活発でツーウェイ・ツーリズムが定着している。2019年時点で日本と同じ島国のイギリスはアウトバウンドの比率が137.1%、インバウンドの比率が58.1%。ドイツはアウトバウンドの比率が118.8%、インバウンドの比率が47.2%。一方の日本は、アウトバウンドの比率が16.1%、インバウンドの比率が25.5%とアウトバウンド・インバウンドの比率が逆転している。日本が交流大国になるには、アウトバウンドの活性化が課題となってくる。アウトバウンド促進によるツーウェイ・ツーリズムの拡大は「日本人の国際感覚の向上」、「国際相互理解の増進」といった成果が期待される。本論文では、日本のこれまでのアウトバウンド政策の歩みと長年、出国率100%以上を保ち、ツーウェイツーリズムが成り立っているドイツのアウトバウンド政策を比較してアウトバウンド促進のための課題を考察した。

その結果、経済状況・価値観や科学的な根拠による政策の実施と休暇制度の違いがあることが分かった。

ドイツは「クオリティ・モニター」、日本は国土交通省観光庁による「旅行・観光消費動向調査」を実施しているが、日本はもっと調査結果からマーケティングのチャンスを生み出し、積極的なアウトバウンドキャンペーンやセールス活動を打ち出していくべきである。また、日本のアウトバウンド促進には、ドイツが行っているように、主要観光客送り出し10カ国に対しても系統的なリサーチを行うことが効果的であると考えられる。

日本とドイツには16日間の休暇日数の差がある。また、ドイツの有給休暇取得率が100%であるのに対し、日本は50%であり、日本では休みを取ることにマイナスのイメージを持っている人が多い。休暇を取ることにさえ罪悪感を抱いては、休暇旅行など持つてのほかであり、長期休みが必要な海外旅行へ行くことは不可能である。休暇制度、労働時間の改善が日本のアウトバウンド促進に繋がるといえる。

プロ野球球団によるターゲットマーケティングに関する研究

藤岡莉子（大谷ゼミ）

レジャーが多様化する現代においてプロ野球の観戦客は増え続けている。果たしてプロ野球のファンはどのくらい存在し、どれくらいの人々が球場へ足を運んでいるのであろうか。観戦する人は何を求めているのであろうか。各球団は観戦客を増やすためにどのような工夫をしているのであろうか。

本論文ではまず観客動員数と顧客の特性を中心にプロ野球球団の概要と現状を整理し、各球団が観客動員数を増加させていること、しかしその一方で女性・若年層・家族連れのそれぞれの顧客層については集客に成功していないことを指摘した。

続いてそれらの顧客層をターゲットとして各球団が行っている取り組みについて具体的な事例を整理し、そのねらいを考察した。たとえば女性向けの観戦デー、若年層向けのパブリックビューイング、家族連れ向けのアトラクションなどである。

これらを通して、各球団が「野球を見る」ということだけでなく、それに関連する施設・サービス、イベントにより球場を訪れるきっかけをつくる取り組みをしていることを明らかにした。各球団が今後もターゲットのニーズに合致する取り組みを重ねていくことでファンが増加し、それがプロ野球の発展につながることを期待する。

中国政府によるウイグル族への宗教と人権の弾圧 ～100 万人以上の強制収容所の実態～

大井陽（段ゼミ）

近年、中国政府によるウイグル族への宗教と人権の弾圧がおきている。中国の新疆ウイグル自治区で 100 万人以上のウイグル族が強制収容所に収容されている。

中央人民政府の 2020 年第 7 回国勢調査予備集計データによると新疆ウイグル自治区人口は 2585 万人である。このうちウイグル族人口は 1162 万人である。

本論文では弾圧や強制収容所の実態を明らかにするために 1 章では、弾圧と強制収容所の始まりを論じる。

2 章では、強制収容所内部の様子とウイグル人がおかれている日常の出来事を論じる。また、収容所の数や収容者数を考察する。この問題は多くのグローバル企業とも深く関係している。その一部には日本企業も含まれており、社会的責任が求められることになる。

3 章では、中華人民共和国憲法の全文を入手して、憲法で定められている人権の保障と宗教信仰の自由が記載されていることを確認する。そして、その憲法で定められているにもかかわらず蔑ろにされている憲法と実態を次に論じる。

4 章では、ウイグル族弾圧に対して世界各国の反応を考察する。中国政府によるウイグル族への弾圧について世界各国が非難している。一方で中国政府を擁護する国も存在している。擁護する理由としてイスラム世界の国が不安定な状況や経済間の繋がりが原因である。そして、米国と欧州連合、日本の対応を論じる。この問題はスポーツ界にまで広がりを見せている。世界的に活躍する選手が弾圧実態について発言をしている。2022 年 2 月に北京で開催を予定している冬季五輪のボイコットを求めている世界ウイグル会議などの人権団体もある。米国は外交的ボイコットを行うと発表している。

そして、この弾圧を終わらせるために必要な方向性を述べる。それは、輸出規制や資産凍結、禁輸措置などで国際社会が協力して中国を包囲していくことである。また、非難の声、人々の関心も重要である。これらが弾圧を終わらせるための第一歩になると考える。

本論文を執筆するにあたり現地での調査は危険を伴うため関連する文献や取材記事、動画を参考した。

「大阪」IR事業の実現化へ向けた提言 ～海外先進地における取り組み事例から～

下峰凌哉（福本ゼミ）

現在、アメリカのラスベガスを中心に世界各国で統合型リゾート（以下 IR）の誘致が相次いでいる。そして近年、日本国内でも IR 誘致の検討がなされている。雇用機会の創出と観光消費額増加による税収増などの効果をもたらされる IR は、今や国際的にトレンド産業となっており、新型コロナウイルスの影響で悪化する日本の財政の改善にもつながると考えられる。日本でも IR 誘致が話題になる中で、「気候・自然・文化・食事」という観光立国における四つの条件を兼ね揃えている日本版 IR の可能性に強い関心を持った。ゼミ活動を通して、大阪への IR 誘致活動に参画する機会があり、それがきっかけとなり大阪 IR の実現化へ向けた戦略を詳しく知りたいという思いからこのテーマを選んだ。着眼したのは、「集客」に対する大阪の優位性と競争戦略である。世界中から「集客」を行っていくためには、すでに IR を開業しているラスベガスやマカオ、シンガポールなどの海外先進地にはない大阪のオリジナリティを活かした IR を目指す必要がある。本論文では、海外先進地と比較して大阪 IR の実現に向けた競争戦略とその可能性を考察する。

I では、海外先進国（シンガポール）の IR 事業の現状と課題を明らかにする。また、その課題に対してどのような対策を行って IR 事業を成功へ導いたのか、事業成功の条件を考察する。II では、大阪の現状と課題を踏まえた上で、大阪 IR 誘致へ向けたマネジメント体制の確立、社会的課題の事前解決、競争戦略の構築を検討する。III では、大阪 IR の優位性と競争戦略を踏まえて、海外先進国にはない日本国ならではの独自性を活かした大阪 IR の目指すべき姿を提唱し、大阪 IR が大阪をはじめとして関西や日本にもたらす可能性を探る。最後に大阪 IR 誘致を実現するに向けて、今の日本に何が必要なのか、自らの考えを主張したい。

新型コロナウイルスの影響に伴い、世界中の観光需要は低迷し、日本国内での IR 誘致地の決定が延期を強いられる現実にある。しかし、観光需要が回復した時には IR 事業は日本の観光産業を活性化させる存在になると考える。これからの日本経済に果たす貢献度は大きく、日本版 IR の未来に期待する。

街の住みやすさについて

吉田薫（長谷川ゼミ）

2020年1月頃から始まったコロナ渦により私たちのライフスタイルは変化した。オンライン授業やテレワークをはじめとし、自宅で過ごすことが多くなった。その一方、民間企業が行った調査「新型コロナウイルスの流行による移住への意識変化」では興味深い結果が示された。新型コロナウイルス感染症流行以降、「移住したい（住む街を変えたい）」という意識に変化はありましたか」という質問に対し、直近3年以内に移住を考えたことがあると答えた1342人のうち、実に88%の被験者がコロナ渦でも移住を検討していると回答しており、特に都心から労働環境の整った地方への移住者は今後も増えていくように思われる。

さらに今日では、家選びの常識も変わりつつある。日本は戦後、地方から三大都市圏を中心とした都市部に人口の大移動が続いた。その後、共働き世帯の増加に伴い、高額なローンを組み、年収の何倍もする家を購入する人が増加した。サラリーマンと家選びは、都市居住や駅近など「利便性」重視の「会社ファースト」が常識化し、都心のマンション価格も上昇を続けていった。

しかし、アフターコロナの社会を見据え、住環境に対する人の意識にも変化が生じてきている。その一つに、自分の好きな地方都市で暮らすことも選択肢として挙がるようになってきた。

毎年、東洋経済は「街の住みよさランキング」を発表している。筆者の地元石川県野々市市は2021年総合評価で1位となった。同ランキングは街の住みよさを表す各種指標を偏差値化し、その平均を総合評価としたものである。指標は、安心度・利便度・快適度・富裕度の4つの視点から算出されたものである。しかし、本指標において、移住者の深層心理は評価の対象外となっている。そこで本研究では、人々がどのようなことを重視して街の住みやすさを感じるのか、人々の主観性に注目し、その検証を試みた。

本研究では階層分析法を用いて分析した。具体的には4つの代替案を総当たりで比較するものである。例えば、「安心度」という評価基準で「東京」「大阪」どちらに重きを置くか比較する。分析の結果、男女間での違いや、東洋経済の「住みよさランキング」との類似点を発見することができた。

本研究を通してまちづくりに対する関心がより深まった。ニュータウンとして開発される街やリゾート誘致に取り組む街、或いはインバウンド増を目指す街など、各自治体も目指す姿に応じて、施策も変わってくる。私はこれから不動産事業に関わる人間として、持続可能な住みやすいまちづくりに貢献したいと考える。

チャットによせられたコメント・感想・質問

[水曜日 10:18] 松村嘉久先生

確かに海外でも地元の普通のスーパーマーケットとか市場とかはとても魅力的。学生らと台湾フィールドワークへ行った時も、スーパーマーケットで、スナックコーナーのヒマワリの種やスイカの種とか買っていた。安いし日本に無いし。インバウンド客が大阪の普通のスーパーマーケットに入っても、カルチャーショック受けてるんでしょうね。面白い視点。研究せなあかん分野ですね。

[水曜日 10:25] 渡辺和之先生

沖縄のアンテナショップが大阪にもあるけど、それも認知不足かもしれない。

[水曜日 10:36] 松村嘉久先生

感想です。化粧って装って化けるっていう意味だから、戦国時代の武士なんかは、相手に表情を読み取られないよう、顔色を隠したのかも。化粧が「美」を追求するなかで、誰かを真似て個性を消す、という発想は大切。

[水曜日 10:38] 森重昌之先生

身近なところから問題意識を見つけ、卒業研究のテーマに取り上げている点がおもしろいと思います。この研究を通して、松井さんはこれからどんな化粧をしようと思いますか。また、朝の化粧時間は変わりそうですか。

[水曜日 10:44] 松村嘉久先生

学生も感想とか質問を書き込もうよ。上の方に「会話の表示」というアイコンがあるので、それをクリックしたら、会議チャットに入れます。せっかく参加しているなら発言しよう。

[水曜日 10:53] 松村嘉久先生

広電は黒字経営なんかな。大阪の阪堺電車は経営が大変だと聞いています。採算がとれないと維持できない。日本の路面電車で独自で採算がとれている、経営状態の良好な会社ってあるのでしょうか。

[水曜日 10:55] 和泉大樹先生

商業的価値から文化遺産的価値への昇華を進める手法の1つとして文化財指定があります。広電ではそのようなアクションは見られないのですか？

[水曜日 10:56] 渡辺和之先生

広電は阪堺電車と同じ車両なのだと思いましたが、それは全国の車両を広電が引き受けているからだったとわかりました。旧型車両は鉄道ファンに人気なのでしょうが、お古を使うと、メンテナンスが大変？ 昭和の電車だから修理できるとか、ハイテク電車は統御が難しいとか、その逆とかはあるのでしょうか？

[水曜日 10:57] 松村嘉久先生

確かに愛媛の路面電車は生きていました。やはり観光を絡めるのが重要ですね。

[水曜日 10:58] 塩路有子先生

ヨーロッパにはトラム博物館がある街もあります。さらに、歴史的な車両を使って観光ツアーをする車両もあります。

[水曜日 11:01] 鷺崎秀一先生

自分のとこの学生ですが、今日のためにたくさん準備して、まだ未熟なところもありましたが、今日が一番よかったです。このような経験を糧に、今後は社会で自信をもって、活躍してもらいたいです。みなさま、ご質問ありがとうございました smile。

[水曜日 11:08] 松村嘉久先生

世代的に 50 歳代の私は紙媒体が中心、今の学生はどうなんかね。発表者はどう。漫画と雑誌でも違う感じがする。

[水曜日 11:08] 藤原一希

紙の本とデジタルの本を読む行為の脳の違いは为什么呢

[水曜日 11:11] 森重昌之先生

感想です。本を読むという行為は、ただ視覚で理解するだけでなく、五感で理解するような気がします。その意味で、紙の本は大切だと思います。

[水曜日 11:18] 渡辺和之先生

みなさん感想をたくさん頂き、ありがとうございます。熊野君は茶色い本がレトロ感があっていいというちょっと変わった学生です。今の若者はネット時代なので、紙のものがある意味で新鮮な部分があるのかもしれませんが。堀内先生は電子派だと思っていましたが、並べて喜ぶと聞いて、そのような側面もあるのだなあとなんか納得しました。

図書館のみなさんにも感謝です。彼が卒論で読んだ本は南キャンパス図書館の司書さんの推薦です。学生のみなさん、卒論のテーマに困ったら、図書館の司書さんに相談してみてください。

[水曜日 12:25] 松村嘉久先生

京都美山の猟師宿も同じく獣害対策でシカ猟をしていて、宿での提供ほか、通販・直売をしていましたが、最近、京都市内のフランス料理屋と提携して、美山ブランドで供給し始めました。ジビエの普及を図ると同時に販路の確保が鍵だと思う。鹿肉は美味い。鳥取では販路開拓する動きはあるのかな。

[水曜日 12:26] 森重昌之先生

地域の課題とゲームという楽しさを組み合わせている点が興味深いです。実際のゲームの内容について、もう少し詳しく聞かせてもらえますか。

[水曜日 12:30] 堀内史朗先生

ゼミ担当教員の堀内です。ご静聴ありがとうございました。カードゲームなのですが、私も見てたのですがかなり複雑です。ですが大学生の皆さんには当たり前なのかな、とか見てました。

[水曜日 12:32] 渡辺和之先生

猟師さんが食べるだけなら簡単だけど、売ったり、他人に出すとなると、衛生基準とか、なかなか面倒みたいです。その上にさらにお土産としてのマーケティングや販路拡大になる訳なので、その辺の現地の方のご苦労も、ぜひバージョンアップされたら、ゲーマーの方々にお伝え頂ければと思います。

[水曜日 12:34] 松村嘉久先生

キシカイセイプロジェクトのネーミングがいいね。

[水曜日 12:41] 加藤諒人さん

継続的なファンの獲得が難しい今ですが、コロナの影響や対策について何かあればお聞きしたいです。

[水曜日 12:41] 中田すずさん

発表ありがとうございます。これからも貴志川線が存続するためには何が重要であると思いますか？

[水曜日 12:44] 加藤諒人さん

答えにくい質問ですみません、ありがとうございます

[水曜日 12:44] 中田すずさん

ご回答ありがとうございます。

[水曜日 12:58] 森重昌之先生

放置自転車とは、場外に駐輪しているものを指しているのか、それとも放棄されているものを指しているのでしょうか。また、望ましい駐輪の状態をどのように考えているのか、聞かせてください。

[水曜日 12:58] 堀内史朗先生

感想です。個人の自転車ではなく、シェアサイクルが、特に都心では増えていけば、結果的に違法駐輪もへるのかなと思いました

[水曜日 13:00] 塩路有子先生

ゼミで長年取り扱われていた放置自転車問題について詳細に調査分析されており、問題が明確化されたと思いました。無料駐輪場は住民にとってはありがたいですが、問題もあるんですね。この際、観光という側面を強調するならば、クレジットカード利用のレンタル自転車を設置するというのも案かもしれません。

[水曜日 13:15] 堀内史朗先生

多角的な調査に基づいた発表お疲れ様でした。勉強になりました。発表の中で指摘されたかもしれませんが、コンテンツツーリズムによるオーバーツーリズムへの対応も課題かなと思います。住民にとっては、観光客が拡散することで、さらに生活の奥底に侵入されたりしないかなと思います。

[水曜日 13:18] 渡辺和之先生

今のコンテンツツーリズムはYoutubeも含めないといけない時代に来ているのかもしれませんが、非常にコンテンツの中身が多様化してきているという主張はよくわかりました。気になったのは、作品は興味あるが、舞台には興味ないという二次元的なファンの存在です。こういう層がどれだけのいるのか、アンケートでわかりましたか？

[水曜日 13:18] 塩路有子先生

コンテンツの多様化によるコンテンツツーリズムのあり方を再検討している点は良いですね。藤沢市のようにフィルムコミッションとの連携が必要になるかもしれませんが、また、午前中の加藤さんの発表にあったようなコンテンツを使ったゲームを作って、現地を訪れると面白いかもしれませんが、個人的には鎌倉物語なんかはアプリでもカードゲームでもできそうな気がします。

[水曜日 13:27] 藤岡桃子さん

堀内史朗先生

多角的な調査に基づいた発表お疲れ様でした。勉強になりました。発表の中で指摘されたかもしれませんが、コンテンツツーリズムによるオーバーツーリズムへの対応も課題かなと思います。住民にとっては、観光客が拡散することで、さらに生活の奥底に侵入されたりしないかなと思います。

堀内先生、コメント頂きありがとうございます。鎌倉市はオーバーツーリズムが問題となっている事から、やはりコンテンツツーリズムのように地域活性化を図る事を目的とした施策は行っていません。そして、オーバーツーリズムを緩和させるために市は積極的に動いている事が今回伺えました。具体的な例として一部紹介致しますと、過去に江ノ島電鉄が混雑しており地域住民さえも乗車出来ていなかった事から、地域住民は優先して乗車できる期間を設けたといった実験が行われた事があります。このように、地域住民を第一に考えた施策を行っていく事は私も必要であると考えています。

[水曜日 13:31] 藤岡桃子さん

渡辺和之先生

今のコンテンツツーリズムはYoutube も含めないといけない時代に来ているのかもかもしれません。非常にコンテンツの中身が多様化してきているという主張はよくわかりました。気になったのは、作品は興味あるが、舞台には興味ないという二次元的なファンの存在です。こういう層がどれだけいるのか、アンケートでわかりましたか？

渡辺先生、コメント頂きありがとうございます。「作品は興味あるが、舞台には興味がない」といった方は有効回答 131 名中 35 名でした。しかし、「コンテンツの舞台となっている場所へ訪れたいと思った事はあるか」という問いにおいて、82 名が「ある」と答え、その理由として「認知をしておらず、コンテンツを通して舞台に興味を持った」という方が 52 名いたため、作品を通して舞台に興味を持つ方のほうが若干多いのかもかもしれません。

[水曜日 13:32] 堀内史朗先生

発表ありがとうございます。以前、日本人の外国旅行についてデータ分析したことがあって、その時の結果で見ると、日本人全体で見るとアウトバウンド率は停滞しているのですが、20 代前半の若者に限定すると 2015 年以降に増えてました。比較的高齢の人をターゲットにしたアウトバウンド促進が求められるのかなと思います。

[水曜日 13:33] 藤岡桃子さん

塩路有子先生

コンテンツの多様化によるコンテンツツーリズムのあり方を再検討している点は良いですね。藤沢市のようにフィルムコミッションとの連携が必要になるのかもかもしれません。また、午前中の加藤さんの発表にあったようなコンテンツを使ったゲームを作って、現地を訪れると面白いかもしれません。個人的には鎌倉物語なんかはアプリでもカードゲームでもできそうな気がします。

塩路先生、コメント頂きありがとうございます。加藤さんの発表を通して、私もカードゲームを用いたコンテンツツーリズムは確かに可能性があるように感じました。新しい提案を頂きありがとうございます。

[水曜日 13:50] 堀内史朗先生

発表ありがとうございます。いろんなスポーツがあると思うのですが、特に野球だからこそ、実際にリアルに球場に訪れる特徴ってあるのでしょうか？サッカーとかプロレスなどとの違いです。

[水曜日 13:53] 塩路有子先生

最近サッカーでは、ホームの地域貢献をしているチームが多いみたいですが、若い人の野球離れもあるせいか、野球のチームによる地域貢献活動はあまり広報されていないのでは？

[水曜日 14:08] 堀内史朗先生

発表ありがとうございます。中国政府を支持する国の中に、イスラム教が支配的な国が相当数含まれているのが意外でした。一帯一路で経済的に依存関係にあることも理由かもしれませんが、それだけではないんじゃないかとも思います。日本も中国との経済関係は強いです。経済以外の理由はあるのでしょうか？

[水曜日 14:11] 渡辺和之先生

強制労働と企業の関わりについてもう少し説明して欲しいです。いろんな企業がこの問題に及び腰だと思うのですが、どんな企業が及び腰なのかとか。私もユニクロを買っていますけど。

[水曜日 14:11] 塩路有子先生

弾圧問題に対する反対やウイグル族を応援するために、私はよく新疆ウイグル自治区で作られたと称されるタオルを買ったりすることがあります。実はそれは強制労働で生産されたものかもしれないのでは。それを買わないようにするにはどうしたら良いでしょうか？

[水曜日 14:25] 森重昌之先生

IR のメリットとして経済効果ばかりが強調されますが、経済面以外にどのような効果が期待できるのでしょうか。特に、日常生活を営んでいるわれわれにメリットを提示することが大切かと思えます。また、最後に話してくれた「IR×豊富な観光資源」の具体的なイメージを聞かせてください。

[水曜日 14:26] DANKasei 先生

昨年8月に行われた横浜市長選挙ではカジノの是非が最大の争点で、推進派の当時の現職林文子市長が落選し、反対派の山中新市長が当選しました。こうした影響は大阪にはどのように現れると思いますか。

[水曜日 14:27] 前藤直也さん

発表有難うございました。カジノがIR収益の多くを占めているとおっしゃっていましたが、カジノとカジノ以外の観光施設がどのくらいの収益を得てきたのか、定量でわかるデータなどはございますか

[水曜日 14:29] 和泉大樹先生

文化財はその学術性、歴史性もさることながら、地域性も顕著なものが多いですね。合わせて考えると何か期待できそうですね。感想です。

[水曜日 14:43] 堀内史朗先生

発表ありがとうございます。アンケートの評価基準のうち富裕度の意味がよく分からないのですが、これは「その都市に暮らせばお金儲けができる」という意味ですか？

[水曜日 14:43] 森重昌之先生

78人のアンケートの属性を教えてください（回答者の居住地、年代など）。大阪の人は、無条件に大阪が好きと考えているような気がします。

[水曜日 14:44] 渡辺和之先生

吉田さんのやった結果と最初の野々市が全国一位になった住みよさは、評価基準として、何が違うのだらうと思いました？ 住みやすさのランキングをみると、北陸が強い傾向が昔からあります。それは大都市圏を好むような一般的な日本人の嗜好とは違う評価基準があるのではないかと思いました。

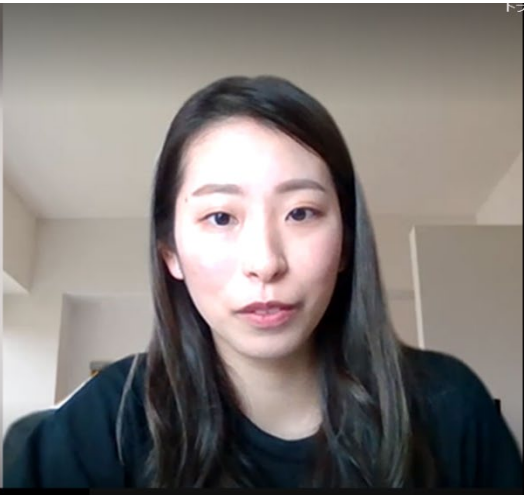
[水曜日 14:49] Matthew Caldwell 先生

Thank you all for giving these presentations. Your research was very interesting and shows us that there is a wide variety of topics that students can study in the International Tourism faculty. Well done!

当日発表資料

<p>ご当地スーパーマーケットにおける お土産店としての可能性 —沖縄県を事例として—</p> <p>和泉ゼミ 立住 空</p>	<p>化粧行動が与える影響 ～現代日本の若者における「化粧」の意味～</p> <p>阪南大学 国際観光学部 国際観光学科 7118151 松井春香</p>	<p>卒検発表会 鷺崎ゼミ 路面電車と観光活用 広島路面電車の歴史的価値を考える</p> <p>7118153 松嶋 颯佑</p> 	<p>紙の本や雑誌の未来</p> <p>熊野志 勇人 渡辺ゼミ</p>
<p>ジビエ肉を題材とした鳥取県若桜町の コンテンツツーリズムの可能性</p> <p>国際観光学部 国際観光学科 7118063 加藤 諒人</p>	<p>和歌山電鐵 貴志川線の 存続に向けて</p>  <p>森重ゼミ 稲田 龍之介</p>	<p>阪南大学 HANAN UNIVERSITY</p> <p>JR・南海新今宮駅周辺の放置自転車 禁止区域指定に向けた実態調査</p> <p>7118003 神谷 幸信・7118004 鈴木 美遊 7118026 板井 智大・7118034 岩元 明日香 松村 隆久 研究室</p>	<p>コンテンツツーリズムがもたらす影響 —江ノ島電鉄及び沿線地域を事例に—</p>  <p>阪南大学 国際観光学部 国際観光学科 栗水ゼミ 7118140 瀧岡 帆子</p>
<p>日本におけるアウトパウンド政策の課題 ドイツと比較して</p> <p>学術番号: 7118173 担当: 深田 楓太郎 指導教員: 宇 和晴</p> <p>阪南大学 国際観光学部 国際観光学科</p>	<p>プロ野球球団による ターゲットマーケティングに関する研究</p> <p>7118141 藤岡 帆子</p>	<p>卒業研究発表会</p> <p>中国政府によるウイグル族への 宗教と人権の弾圧 ～100万人以上の強制収容所の実態～</p> <p>国際観光学部国際観光学科 藤村 大希</p>	<p>「大阪」IR事業の実現化へ向けた提言 ～海外先進地における取り組み事例から～</p>  <p>福本ゼミ 下峰 凌哉</p>
<p>街の住みやすさについて</p> <p>阪南大学 国際観光学部 石田 貴</p>			

当日の様子



【謝辞】

発表会の開催にあたり、阪南大学学会から学部教育研究活動助成制度の補助を受けました。記して感謝します。

+++++

阪南大学国際観光学部（編）『2021年度卒業研究発表会報告書』阪南大学国際観光学部

2022年3月31日発行

〒580-0033 大阪府松原市天美南1-108-1 阪南大学国際観光学部

電話：072-332-1224

URL <https://www.hannan-u.ac.jp/>

+++++